

信越化学工業株式会社

2023年3月期 決算説明電話会議要旨

日 時	2023年4月27日（木） 16:00 - 17:00
開催場所	信越化学工業（株）
会社側出席者	・代表取締役社長 齊藤 恭彦 ・取締役兼専務執行役員 半導体事業担当 轟 正彦 ・常務執行役員 広報担当 秋本 俊哉 ・執行役員 経理部長 笠原 俊幸 ・広報部長 福井 真二
参考資料	2023年3月期 決算短信

* このメモは電話会議でお話しした内容をまとめたものです。

【決算概要説明（社長 齊藤恭彦）】

- 2023年3月期
連結売上高：28,088億円（前年比 35%増）
営業利益：9,982億円（前年比 48%増）
経常利益：10,202億円（前年比 47%増）
純利益：7,082億円（前年比 42%増）
- 全ての項目で記録を更新。
- 2023年3月期第4四半期（1-3月期）
連結売上高：6,455億円（前年同期比 9%増）
営業利益：1,899億円（前年同期比 3%減）
経常利益：1,959億円（前年同期比 4%減）
純利益：1,297億円（前年同期比 12%減）
- 減速したが、3ヶ月前に上方修正した予想に沿った数字で期を締めくくることができた。

[セグメント状況]

- 【生活環境基盤材料】：
塩ビは、北米では1、2月でポンド当たり2セントの値上げを通した。それ以外の地域では、価格はポンド当たり5セント前後上昇した。いま市場は総じて尻模様という形容が当てはまる。ソーダは一旦弱含んだが反転中。北米で春需が2ヶ月ほどずれ込む情勢。住宅着工が2、3月ともに1.4百万戸強であったのはポジティブ。シェルターコスト（住居費）の高止まりに表れているように、住宅不足が解消されない一方で、金融引き締めと信用収縮が重なる恐れを市場が警戒しているように見受けられる。新興国地域での需

要は堅調な部類。

- 【電子材料】：

半導体の前工程材料については、1月の説明会で触れた顧客からの数量調整の要請を双方にとって良い形でとりまとめた。当社の足元の稼働は概ね高水準だが、台湾のデバイス産業の3月の売上高や半導体大手のQ1決算は警戒レベルを上げる内容であり、注視している。

希土類磁石に対する需要は、HDDで在庫調整が長引いており、車載他の分野で拡販に取り組んでいる。

客先に密着して、短期的な調整と中長期の基礎需要を分別しながら、能力増強を適切に行い、また品揃えの拡充を加速させる。

- 【機能材料】：

汎用品の市場は中国の動向に左右されているが、中国での販売も含めて、当社の強みである機能品・特殊品の伸長に注力している。車載用、パーソナルケアおよびヘルスケア向けは堅調。

- 【加工・商事・技術サービス】：

工程内用ウエハーケースも含めて、ケース需要に今のところ変化なし。

- 在庫削減や在庫調整が話題の中心になりがちだが、事業成長の要素は複数ある。一例を挙げると、当社の車載用途の製品がもし一式揃って使われると現時点で一台当たりの金額は概算で1万円を超える。EVになるとそれが格段に増える計算。これからも様々な領域で成長機会を追求していく。

[株主還元と今後の見通しについて]

- 通期の配当予想は500円。
- 経済情勢は刻一刻と変化しており、また逆風が今後強まると見込まれるが、事業をさらに伸ばす手立てを着実に講じていく。

【補足説明（広報部長 福井真二）】

- 2024年3月期の設備投資額は約3,800億円、減価償却費は約2,400億円の見込み。
- 経常利益の為替感応度は、1円の変動でUSドルは年間57億円、ユーロは年間4億円。

【質疑応答】

〈生活環境基盤材料〉

Q	足元の塩ビ需要について
A	<ul style="list-style-type: none">・ 足元の風模様からいつ抜け出せるかを注視しているところです。アメリカで春需が遅れていること、そして、春需が遅れてもそれなりに起こるということが注目点の一つ目です。その点については、まだお客さまの見通しを詰め切れていない状況です。二つ目がアジアの地域で、中国で今個人消費を中心に経済が盛り返してはいますが、住宅を中心とした建設がどうなるかということ。インドは比較的堅調ですが、彼らの購入パターンがどうなるか。風状態からいつ抜け出せるかについては明言できませんが、そういった要素を見ている状況です。
Q	ソーダの市況について
A	<ul style="list-style-type: none">・ ソーダ市況の反転の要因については、供給側で見ればこの3月から5月のあたりで、複数の定修があるということが一つ。それから電解各社の操業度の状況、そして需要はそんなに緩んでいないということ。そのような結果として、ソーダの反転が見られるということです。
Q	シンテックの1-3月期について
A	<ul style="list-style-type: none">・ 昨年の1-3月期と比べれば減益です。昨年の1-3月期が大変良い数字でしたので、想定内です。10-12月期と比べて、ドルベースで同程度と見ています。
Q	塩ビ、原料の市況動向について
A	<p>(米国の塩ビの市況)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 3月は値上げが通らず、4月も値上げは難しくフラットでしょう。その背景は、既述のとおり春需の遅れがあります。お客さまは年初春需を想定して、それなりに作り込みもしていましたが、春需が思ったように立ち上がらなかったため、逆に生産調整をするところも出てきたということが背景にあります。遅れてくる春需を我々も大いに期待しています。 <p>(北米以外の塩ビの市況)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 市況は常に上下しますが、大きな値崩れは今のところないと見ています。・ 輸出の値段は、必ずしも一物一価ではなく、地域や成約時期、各社の売り方によって異なります。業界紙が述べるような、簡単に一つの値段で取り仕切れるような市場ではありません。それがゆえに、当社は、他社に比べて良い数字を出しています。市場の在り方や相場の動きなどをうまく合わせ込むということの積み重ねになります。業界紙で報道される市況が全く違うわけで

	<p>はありませんが、それだけではないということです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 北米から見た海外と北米の値差が話題になりますが、価格差が広がると、安価なアジア品がアメリカに入ってくるのかということ、そういうことはなく、内外価格差が北米の値段を決めるようなことはありません。北米の値段は北米の需給で決まります。春需の遅れを注視していますし、お客さまと良好で強固な関係を持っているので、もし市場が弱含むのであれば、乗り越えるための策をお客さまと一緒に考えて打っていくことになります。 <p>(原料の市況動向)</p> <ul style="list-style-type: none"> 天然ガスの下落、それからエタンの下落は、利益面で1-3月の助けになったことは間違いありません。
Q	北米の塩ビ需要の見通し
	<ul style="list-style-type: none"> 住宅市場を見ると、金利が下がると家の販売は増えます。住宅販売は金利の感応度が極めて高いので、金利上昇が終わり、落ち着き、借入金利の利率が下がる傾向に入れば、住宅着工も含めて戻り局面になっていくだろうと考えています。長期的に塩ビ需要は、北米もさることながら全世界で増えることは疑う余地がないので、当社は塩ビの増強を今進めています。
Q	シンテックの第二期増設の状況について
	<ul style="list-style-type: none"> 新增設を遅らせるということではなく、計画どおりに建設を進めています。
Q	北米の住宅許可件数の減少や地銀の融資問題の影響について
	<ul style="list-style-type: none"> 住宅建設の大手の決算を見ても、そういった影響は少ないと見ています。

〈電子材料〉

Q	半導体ウエハー市場の Q4 (1-3 月期) の出荷動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> 10-12 月期と比較して約 1 割落ちました。減速感が元々大きかった 150mm 以下のウエハーは、さらに減速して前期比で 1 割強の減少となりました。200mm、300mm はそれぞれ 1 割弱の減少幅となっています。
Q	半導体ウエハーの見通しについて
A	<p>(Q1 〈4-6 月期〉 の見通し)</p> <ul style="list-style-type: none"> お客さまの調整は続いています。年初の見通しでは 2023 年後半の回復が見込まれていたため、4-6 月はその前提での発注となっており、1-3 月よりは上向くと見ています。 <p>(Q2 〈7-9 月期〉 の見通し)</p> <ul style="list-style-type: none"> お客さまの調整が当初の予想より長引く傾向にあり、7-9 月では再びお客さ

	まの在庫調整局面となることもあると考えられます。
Q	半導体市場の回復時期について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ IC 出荷量の長期的なトレンドは年率7%程度で成長してきましたが、コロナ特需やサプライチェーンの混乱により、2021年から2022年の前半はその流れを大幅に超える高成長となりました。その反動が2022年の夏過ぎから表れ、現在はその調整の真っただ中にある状態です。メモリーに限らず、ロジック系も調整が行われており、当初言われていた2023年7-9月期からの回復は後ろ倒しになる可能性もあります。
Q	長期契約の履行状況について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期契約のあるお客さまからの数量調整の要請に対しては従前どおり、契約期間内での数量調整や契約内容に見合う価格の値上げなど個別のお客さまと協議して対応しています。
Q	半導体ウエハーの投資について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2024年以降の当社のグリーンフィールド投資は、お客さまとの長期契約に基づき進めています。
Q	EUV マスク blanks の開発状況について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相当難しい領域なのでお客さまの評価に結構時間がかかっています。今期の収益に大きく寄与するということではありません。

〈機能材料〉

Q	シリコン事業の Q4 の減益について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 汎用性の高い製品の需要が落ちていて、それに伴い値段が下がりました。1-3月期に定修があったことも一つの要因です。

〈全 社〉

Q	今期（2024年3月期）の設備投資額について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各セグメントで増えています。セグメント別の内訳は開示していませんが、前期（2023年3月期）で大きかった順に今期も増える見込みです。
Q	伸びを期待している製品について

A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての領域で伸ばすように手を打っています。 ・ 特に電子材料では、伸びについては、厳しめのところとまだまだ十分な余地のあるところがありますが、全ての領域できちんと手立てを打っていきます。 ・ 今後成長が期待される EV に使われる当社製品の量はますます増えていきます。例えばシリコンは、ガソリンエンジンに使われる分量に比べて EV には 4 倍くらいの量が使われます。さらに 5 倍、6 倍と増えるように取り組んでいきます。 ・ 新製品にも色々と注力しており、今期に寄与させられるよう、多角的に全方位で事業を伸ばしていくことに取り組んでいます。
Q	手持ち資金の水準について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の手持ち資金は、適正な範囲の中に入っていると認識しています。
Q	2023 年 3 月期の建設仮勘定について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 増加が大きいのは生活環境基盤材料です。
Q	投資リターン（ROIC）の考え方について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業あるいは投資ごとに投資評価の基準（ハードル・レート）は違いますが、当然、投資リターンの基準は持っています。